景観資源の活用事例

＜淀川における事例＞

〇淀川水系一斉美化アクション

〇淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワークの活動

〇淀川まるごと体験会

〇日没時刻の紹介

〇淀川浪漫紀行

〇大阪・淀川市民マラソン

〇淀川アーバンキャンプ

〇淀川わいわいガヤガヤ祭

＜他の河川における事例＞

〇鈴鹿バルーンフェスティバル
/鈴鹿川 [一級河川]（三重県）

〇ライトアップ
/隅田川 [一級河川]（東京都）

〇七條大橋をキレイにする会の活動
/鴨川 [一級河川]（京都府）

〇遣唐使船レース
/嘉瀬川 [一級河川]（佐賀県）

〇こいのぼりフェスタ１０００
/芥川 [一級河川]（大阪府）

〇やすらぎ堤
/信濃川 [一級河川]（新潟県）

淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

事例：淀川水系一斉美化アクション

河川内には一部の利用者によるゴミの廃棄、散乱、不法投棄が見受けられ、河川管理・水辺利用・河川景観・公衆衛生の面から大きな課題となっています。淀川水系一斉美化アクション連絡会では、このような課題に対して、２０１６年度から「淀川水系一斉美化アクション」として、行政及び地域住民と連携し、活動に取り組まれています。

淀川水系（淀川・桂川・宇治川・木津川）の上流から下流まで、住民とともに一斉に清掃することにより、河川美化、水辺環境保全に取り組まれています。また、マナーアップの意識の共有を参加者に促し、ゴミを捨てない「ゴミの持ち帰り運動」へと発展させていくことを目的にされています。

平成３０年度には、２月から３月の期間中に、淀川流域７エリアで、５３１１人の参加者とともに、約５１tと１０００袋（４５l/袋）のゴミを回収される等、淀川が持つ自然景観を維持・保全されています。

写真提供：淀川河川事務所

＜取組み主体＞

〇主催：

・淀川水系一斉美化アクション連絡会

淀川流域７エリア河川美化活動主催団体
国土交通省淀川河川事務所（事務局）
河川管内河川レンジャー

〇後援：

関西広域連合、大阪府、京都府、京都市、
朝日新聞社、京都新聞、産経新聞社、毎日新聞社、読売新聞社(５０音順)

事例：淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワークの活動

「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（略称イタセンネット）」は、淀川流域で活動する市民団体と研究機関、行政が連携し、「国の天然記念物イタセンパラを再び淀川に泳がせよう」を合言葉に生息地の淀川の自然再生・生物多様性を目指すネットワークで、２０１１年８月から１７団体で活動を始め、現在４３団体が城北ワンド群、庭窪ワンド群を中心に活動しています。

１９７０年初頭～２０００年代の城北ワンドは、年代を追うごとに外来魚、特に在来魚に影響のあるオオクチバスやブルーギルが増えていて、相反するかのように在来の魚は年代を追うごとに減少し、２００５年を最後にイタセンパラの生息も確認できなくなりました。そうした背景もあり、２０１２年４月から城北ワンド群で外来魚の定期駆除活動を開始されました。城北地区の数か所のワンドでは、在来魚の種類と数も増加傾向にあり、肉食性外来魚の抑制効果が少しずつ表れ、２０１３年に再導入されたイタセンパラも生息数を増やしてます。定期的に駆除活動を行うなど、淀 川の自然景観を維持・保全されています。

写真提供：
淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

＜活動内容＞

定期駆除活動（外来魚、外来植生）、外来魚駆除釣り大会、
ゴミ清掃、見学会淀川の生物多様性に関する情報発信・広報、
教育・啓発活動　　など

事例：淀川まるごと体験会

寝屋川再生ワークショップからかかわられてきた寝屋川市駅前のせせらぎ公園の完成後、市内の水路の再生へと活動が広がり、生きものや文化を視野に入れた淀川の再生をしたいという想いが芽生えたことがきっかけで、淀川点野地区での活動を始められたそうです。

淀川まるごと体験会のイベントはその活動の１つで、２００８年から毎年夏に1回、参加者は１００名前後、スタッフも合わせると１５０人～２００人規模で実施されています。運営資金は、各団体の持ち出しを基本とし、資材も、市民団体、市役所、国土交通省等が各々で用意されています。主催団体の固定化と高齢化、資金面が課題のようです。

活動当初から点野地区が里川として整備されることを夢見て、まちづくりに市民が参加できる可能性を見つけるという志で取り組まれており、その献身的な活動を続けられたことも加味され、国土交通省の再整備のモデル地区に淀川沿川で唯一選定されました。

＜取組み主体＞

〇主催：
- 淀川まるごと体験会実行委員会
  - ねや川水辺クラブ
  - 摂南大学エコシビル部・石田ゼミ
  - 大阪府「私の水辺」大発表会北河内実行委員会
  - ねや川ユースネット
    - 摂南大学/大阪電気通信大学/ねや川水辺クラブＪｒ.
    - 大阪府立大学工業高等専門学校、
    - 大阪府立西寝屋川高校生物部、
  - 淀川管内河川レンジャー

〇協力：
- 水辺に親しむ会
- 淀川左岸水防事務組合点野分団
- 寝屋川市自然を学ぶ会
- 淀川河川公園管理センター
- 株式会社 エクセディ

〇支援：
- 国土交通省淀川河川事務所
- 大阪府
- 寝屋川市

＜実施プログラム＞
- Ｅボート、カヌー、ＳＵＰ体験
- 土のう積み体験
- レンガアーチづくり
- ヨシのコースター作り
- 清掃活動

など

事例：日没時刻の紹介

梅田スカイビルの空中庭園展望台

淀川の夕景の魅力を体感してもらうため、自社施設内で日没時刻の紹介を行い、淀川の自然景観を楽しむ利用を促進されているものです。日没時刻を紹介するようになったきっかけは、淀川に沈む雄大な夕景をみなさまに見ていただきたいという想いからだったそうです。

日没時刻の掲示板を導入してから、徐々に夕景を目当てに来館される方も増え、最近では海外からの旅行客の方も来られるようになりました。大阪を代表するこの景観が世界に向けて発信されていくことを期待し、運営されています。

＜取組み主体＞

積水ハウス梅田オペレーション株式会社

写真提供：積水ハウス梅田オペレーション株式会社

淀川の景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

事例：淀川浪漫紀行

舟運を復活させるクルーズを始めるきっかけには、阪神淡路大震災が関係していました。大規模地震が発生した場合、道路、鉄道等が寸断されるおそれがあり、救援、機材の運搬等に水上交通が大変役立つとされているからです。2006年から試験的に運航され、2017年9月から淀川浪漫紀行の運航が開始されました。

その特徴のある船は、明治時代に淀川を往来した川蒸気船をモチーフとして作られたものです。

災害時も見据えながら、通常は淀川沿川の自然と歴史を再発見していただきたいという想いで運行されています。

＜取組み主体＞
〇主催：大阪水上バス株式会社
〇後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所
・大阪府　・枚方市　・枚方文化観光協会
・淀川舟運整備推進協議会　・北大阪商工会議所
〇協力：丸万寿司 / 割烹 藤

＜船内プログラム＞
・語り部による流域にまつわる歴史内容の等のアナウンス
・三十石船唄の演奏　など

写真提供：大阪水上バス株式会社

淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

事例：大阪・淀川市民マラソン

大阪・淀川市民マラソンは、市民の参加および完走する事に意義を求め、市民自らがつくりあげる市民参加型のマラソン大会として1997年から毎年11月に開催され、2018年度で第22回となります。このマラソンは老若男女を問わず、勝つ事、速く走る事を主目的とせず、誰もが気軽に楽しめるマラソンで、日本で初めての市民による手作りの市民マラソンであるとともに、河川敷のみを走る日本で最初のマラソンでもあります。

初回は、2千人弱の参加者数でしたが、第14回以降は、１万人以上の参加者数を維持されています。その魅力の１つに、普段は通れない「淀川大堰」を渡ることができることも挙げられます。

また、大会当日は参加される皆さんに一日「淀川美化委員会」として、淀川河川敷にゴミなどを放置しないような取組みも行われています。

コースである淀川河川公園を走る事により淀川流域の自然環境を見直し、ランナーの健康と走る環境を考えたエコマラソンを目指されています。

＜取組み主体＞
〇主催：大阪・淀川市民マラソン実行委員会
ボランティアスタッフ

＜実施プログラム＞
・フルマラソン　・ハーフマラソン
・団体フル　・団体ハーフ

※団体は５人1チームとし、5人の平均タイムで競われます。

写真提供：大阪・淀川市民マラソン実行委員会

事例：淀川アーバンキャンプ

「淀川の活性化と賑わい創出に向けた提言(大阪商工会議所)」を受け、２０１５年9月から取り組まれ、毎年開催されています。

公共空間である淀川河川公園西中島地区を利活用し、淀川の魅力の向上が図られています。

都心にいながら自然を楽しめる取組みで、２０１８年にはこれまでなかった河川空間で泊まれるプログラムを実施されました。

写真提供：淀川河川事務所

＜取組み主体＞

〇主催：
　国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・大阪商工会議所

〇共催：
　第１回のみ国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

＜実施プログラム＞

- グローイングアップキャンプ
- 手ぶらでセレクトキャンプ
- カヌー体験
- SUP体験
- Eボート（１０人乗り手漕ぎボート）
- パラグライダープチ浮遊体験

など

事例：淀川わいわいガヤガヤ祭

淀川の河川敷を活用した子供の教育、子育て層の親子のふれあい憩いの場づくり、スポーツを通じた青少年育成を目的に２０１２年から毎年開催されています。

企業からの寄付を基本に運営されており、第8回目には約６５００名の来場者がありました。

淀川右岸流域の事業者、団体、市民の憩いの場とし、絆を深めるとともに、防災、安全、環境、歴史、文化、福祉等を考えるきっかけづくりとなるようなイベントを行い、淀川右岸流域の地域文化の発展、活性化に寄与されています。

＜実施プログラム＞

- 淀川に関するイベント
（淀川クルーズ、水上オートバイなど）
- 防災関連コーナー
- 青少年育成、遊びコーナー
（ミニ電車、木工教室など）
- スポーツコーナー
（フットサルなど）
- 演奏、演舞、演芸
（大道芸、紙芝居など）　など

＜取組み主体＞

〇主催：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会
〇共催：淀川河川公園
〇後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所
環境省近畿地方環境事務所 ・ 大阪府 ・ 摂津市
摂津市教育委員会 ・ 摂津市自治連合会
摂津市老人クラブ連合会 ・ 摂津市商工会
摂津ロータリークラブ ・ 摂津ライオンズクラブ
摂津市ＰＴＡ協議会 ・ 一般社団法人摂津青年会議所
ＮＰＯ法人日本防災士会 大阪府支部 摂津地区防災士会
摂津市国際交流協会
〇協力：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
生物多様性センターサポートスタッフ ・
自衛隊大阪地方協力本部 ・ 大阪銘木団地 ・
大阪銘木青年会
各校区連合自治会：鳥飼・鳥飼北・鳥飼西・鳥飼東
味生・別府

写真提供：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会

川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

事例：鈴鹿バルーンフェスティバル/鈴鹿川 [一級河川]（三重県）

鈴鹿バルーンフェスティバルは1992年に初開催され、2018年で27回目でした。当初、中部地方で熱気球がフライトできる場所を探していた中で、自然環境と都市がバランスよく共存した鈴鹿市が候補地となりました。以来、鈴鹿バルーンフェスティバルには全国からパイロットが集まり、大空を色とりどりの気球が彩る秋の風物詩となっています。

メイン会場となる河川緑地では様々な催しが行われ、来場者に楽しんでもらうための一つに体験搭乗を実施されています。河川緑地会場では限られた時間の中でできるだけ多くの方に体験してもらうことと、少しでも多くの熱気球を見てもらう目的で熱気球５機で係留されており、上空から自然景観を楽しむことができます。

熱気球や競技を見に河川緑地会場または鈴鹿サーキット会場へ来場する方々は３日間で約16万6千人（2018年実績）でした。

今後も市民をはじめ、皆さんに熱気球と自然景観の魅力を知ってもらいたいという想いで活動されています。

＜取組み主体＞
鈴鹿バルーンフェスティバル実行委員会

＜利用内容＞
- 搭乗料金：中学生以上2000円、小学生1000円
  未就学児は保護者1名につき2名まで無料
- 搭乗人数：3,4人程度
- 搭乗時間：5～6分

＜係留飛行の条件＞
- １機あたり50m×50m程度の場所（地上及び空中に障害物がないこと）
- アンカー車両の乗り入れ可であること（3～4台／機）

写真提供：鈴鹿バルーンフェスティバル実行委員会

川の景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

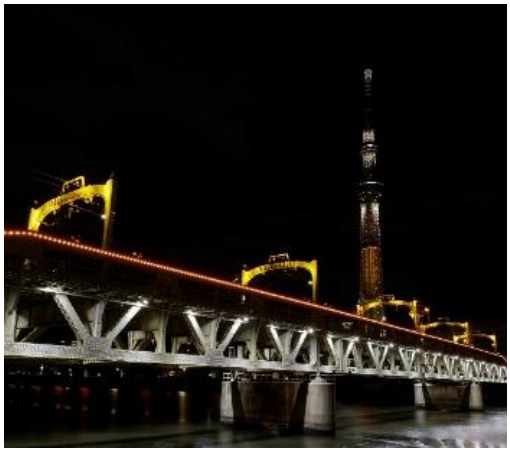
事例：ライトアップ/隅田川 [一級河川]（東京都）

東武鉄道では、東武グループ中期経営計画の成長戦略において、集中投資を行う重点エリアを４か所定められており、その１つが浅草・東京スカイツリーエリアです。このエリアの賑わいの創出と回遊性の向上を目的として、「四季折々、浅草と東京スカイツリー®をつなぐ色彩の架け橋」をコンセプトに、東京都の支援のもと、2018年から自社管理橋梁（隅田川橋梁）のライトアップを開始されました。

ライトアップは、東京スカイツリーや隅田川を運行するクルーズ船等、浅草・東京スカイツリーエリアの様々な場所から見ることができ、沿線魅力向上、夜間景観の向上に寄与されています。

また、ランドマークである東京スカイツリーのライティングとのコラボレーションや桜まつり等の四季折々行われる地域のイベント等に応じたライトアップ等、相互連携により景観魅力を向上させる工夫もされています。

＜取組み主体＞
東武鉄道株式会社



写真提供：東武鉄道株式会社

事例：七條大橋をキレイにする会の活動/鴨川 [一級河川] （京都府）

2013年にNPO京都景観フォーラムや地元住民の方で竣工１００周年を祝った七条大橋ですが、七条大橋への関心はなかなか広まらず、しばらくは草やゴミだらけだったそうです。そこから、市民でできることで七条大橋をキレイにしようと、2015年７月７日に、有志12名で清掃活動を始められました。

以降、七条大橋の魅力をたくさんの方に知っていただくことを目的に、毎月７日の９時に清掃活動を行われています。現在、徐々に周辺の住民、事業者、行政関係者、遠方のファンなどが参加され、毎回約50名の方が参加されています。さらに、始めは様々な動機で来られていた参加者同士が七条大橋がつなぐご縁でつながっていき、コラボ企画なども生まれています。

運営の初動期から市の助成金で活動を行っていたそうですが、徐々に自己資金で賄えるようにされています。また、2018年に行ったライトアップは寄付金も募られました。

さらに、当初は七条大橋の価値はあまり認識されていなかったそうですが、活動を進めるにつれ応援してくださる方が増え、市の様々な働きかけもあり、2018年11月に、国の登録有形文化財になることが決まりました。

写真提供：七條大橋をキレイにする会

＜取組み主体＞

〇七條大橋をキレイにする会

＜活動内容＞

- 毎月7日 9時から定期清掃活動と交流会
- 広報宣伝活動…パンフレット作成、facebookでの情報発信、絵葉書・缶バッチ・てぬぐい作成、ミニ講座、各種イベント（ライトアップ他）　など

事例：遣唐使船レース/嘉瀬川 [一級河川] （佐賀県）

鑑真和上が佐賀の嘉瀬に上陸したことにちなんだ、歴史・文化を活用し、川と人とを繋ぐ手漕ぎ船レースです。１９９７年から毎年8月に開催し、 2018年度で第22回となります。船は、当時の遣唐使船を模したもので、１チーム12～16名で構成され、45～50チームが参加されています。運営（資金源）は、協賛金で運営されています。

また、大会前日には、「親水事業」の原点である「川をきれいに大切に」の呼びかけのもと、レース会場及び嘉瀬川堤防で清掃活動が行われています。

毎年、選手団は県内外から毎年出場のベテランチーム、初出場チーム、ほか外国チームの参加もあり、会場全体から盛んな声援拍手の中接戦を繰り広げられ、家族や友人同士の親睦、官・民の事業運営協力、異業種交流の場となっています。

今後のボランティア活動も盛んになること、歴史が伝承されていくことを期待し、活動が行われています。

写真提供：一般社団法人佐賀市観光協会

＜取組み主体＞

〇主催：
　さが鑑真和上まつり遣唐使船レース推進協議会
（スタッフは、産・官・民のスタッフ）

＜実施プログラム＞

- 遣唐使船レース

＜参加内容＞

- 10,000円 / チーム
- 1チーム選手12～16名まで
- コースL=500m（250m往復）

川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

事例：こいのぼりフェスタ１０００/芥川 [一級河川] （大阪府）

子どもたちが健やかに育つことを願うとともに、高槻の都市シンボルである芥川の河川愛護とふるさと意識の高揚を目的に、毎年、ゴールデンウィークを中心とした約２週間、１０００匹ものこいのぼりが芥川上空に掲揚されます。掲揚されるこいのぼりは、市民から寄贈されたものや市内の幼稚園児などによる手作りこいのぼりです。

このイベントは、１９９２年以降、四半世紀以上にわたって開催され、市民に身近な事業として根付いてきました。現在では、近隣自治会や高槻青年会議所など、１２の地元団体が主体となって創設した「こいのぼりフェスタ１０００推進協議会」によって運営されています。また、２０１８年には、約１２０もの企業や団体から協賛をいただくなど、地域が支えるイベントとしても成長してきました。

４月２９日（祝日）に開催されるイベントでは、子どもたちが楽しめるイベントとして、ダンスパフォーマンスなどのステージ企画や青空店舗などが出店され、多くの人々で賑わっています。

写真提供：高槻市

＜取組み主体＞

〇主催：こいのぼりフェスタ１０００推進協議会

事例：やすらぎ堤/信濃川 [一級河川] （新潟県）

左右岸の河川敷きで、食事を楽しめるエリア、健康をサポートするエリアを特色位置づけ、市民や企業、行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを創出しています。

株式会社スノーピークによる管理は2017年からで、事務局は2名、その他、新潟市役所まちづくり推進課のご担当者様と営業期間中に出店頂く出店者様（10店舗～）など多くの方々の協力や思いで成り立っている事業です。

2018年の営業期間は、7月1日～10月14日の間で、事業計画は前年の年末から継続して立てられ、関係各所との調整等を慎重に行われています。

また、営業期間中は悪天候時などの現場対応等も事業の中で大きな配慮事項になっています。

その甲斐もあって、毎年3万人を超える利用者が訪れ、そのアンケートの結果からも満足いただけているようです。

写真提供：株式会社スノーピーク

＜取組み主体＞

〇主催：
　新潟市、株式会社スノーピーク

〇後援：
　ミズベリングやすらぎ堤研究会

＜実施プログラム＞

- 手ぶらでBBQ
- 飲食ブースの出店　　など